平成26年度第1回石狩市地場企業等活性化審議会議事録

日時 平成26年10月2日(木) 15:30～16:30

場所 石狩市役所3階庁議室

出席者 委員：北山雀会長、松尾拓也副会長、有田祐司委員、川村健二委員

工藤林子委員、渡辺百美子委員、鈴木いずみ委員

企画経済部 部長 加藤龍幸

商工労働観光課 課長 幸田孝仁

商工労働観光課 主幹 小島 工

商工労働観光課 主任 高橋一彦

傍聴者 0名

=====

【幸田課長】

これから平成26年度第1回地場企業等活性化審議会を開催させていただきます。
審議会の開催に先立ちまして、企画経済部長の加藤からご挨拶を申し上げます。

【加藤部長】

皆様お疲れ様です。昨年、平成25年度の審議会に出席できずに、今日のはじめてなのですが企画経済部長の加藤でございます。どうぞ宜しくお願いいたします。

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今年をご承知のように、「石狩湾新港開港20周年記念事業」ということで市役所総出で、このイベントに取り組んで、おかげさまで8月下旬の「まるごとフェスタ」と「産業見本市」、石狩湾新港管理組合における帆船の「海王丸」等のイベントに約102,000人のお客様が、私どもの石狩市にみえたところであります。多くの方達から6万都市に2日間でこれだけの人が集まるイベントをやったことには、いろいろな問題はあったのですが、なんとか無事に終えたかなというように思います。大変言い訳がましくて申し訳ありませんが、そのような大きなイベントがあったものですから、本来であれば本年度の審議会の開催は、もう少し早めに開催をしたかったのですが、遅れましたことについてお詫びを申し上げます。申し訳ございませんでした。

イベント関係ですが、「三大秋祭り」につきましても、先週の土日の石狩の「さけまつり」をもって終了したところであります。

また、現在、さけ漁の関係でございます。本年は道内における鮭の回遊が厳しいということで、網入れを若干遅らせたところでありまして、昨日現在、厚田地区・浜益地区については、前年より水揚げが増えておりますが、石狩地区が若干減っていると、トータル的には前年度より昨日現在は増えているというような状況であります。

お米の関係では、皆様ご承知のように作況指数が冴え、石狩管内109ということで非常に喜ばしい数値ではあるんですが、ただこの関係につきましても米価が下落するというので、実入りの部分では非常に厳しい部分もあるかなというように思っております。

この地場企業等活性化審議会におきましては、いしかりブランドの推進に向けまして、市内経済団体の意見を集約して、特定地場産材の支援方策の検討を進めたいというように考えております。私ども企画経済部といたしましても、なんとか本市における経済の活性化によって、元気で活力のあるまちの実現を目指したいと思っております。また一方では、今現在、第五期、来年度の「第五期総合計画」の策定作業にも進んでいるところであります。そのなかでも、将来に向けて、住みやすいまちづくりというのをキーワードにしながら、作業を進めているところでありますので、ぜひとも今日お見えの皆様方、各経済団体各位のご協力をお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたしたいと思っております。

簡単ですが、私からご挨拶をさせていただきました。よろしくお願いいたします。

【幸田課長】

本日の会議は1時間程度を予定しておりまして、おおむね16時30分ごろには終了したいというように考えております。

それでは、これからの進行を北山会長をお願いしたいと思えます。

【北山会長】

只今、課長よりお話ありました通り、1時間程度で2つのテーマについて審議してまいりたいと思えます。私を含めて、7名の委員がご出席されてますので、それでは大変お忙しいところお集まりいただいておりますので、できるだけ16時30分位を目途に終了したいと思えますので、よろしくお願いいたします。

それでは審議に入っていきたいと思えます。

まず、1つ目の議題ですけれども、第3次石狩地場企業等活性化計画施策方針の推進についての状況についてということで、事務局の方から資料に基づいてご説明をお願いしたいと思えます。

【小島主幹】

皆様のお手元に資料1というA4・5ページものの資料を配布してございます。これに基づきまして進捗状況の説明をさせていただきます。

(資料1<1ページ>説明)

皆様も新聞・報道等でご承知のことかと思えますが、電気料金の再値上げによって、これまで石狩、北海道は冷涼な気候でデータセンターに有利と言われていたのですが、相次ぐ電気料金の値上げによって、市としても今後、新たな支援方策を検討していかなければならないという危機感をもっている状況ではございます。続きまして、2ページをご覧ください

(資料1<2～5ページ>説明)

【北山会長】

ありがとうございました。

只今、事務局の方から25年度の施策方針の16項目について説明ありましたけれども、これから皆さんから、ご意見なりご質問等あれば受けてまいりたいと思えますので、宜しく願いしたいと思えます。

どなたかご質問等ありましたら、お願いいたします。

【松尾副会長】

2ページ目ですが、コミュニティビジネスの推進ということで、起業を目指す者への情報発信と

ということでですね、起業全般でとらえてしまうと、少し、もしかしたら、コミュニティビジネスとも離れた部分の業種も含めての話になってしまうかと思うので、ここに当てはまるかどうかは別として、「起業したいな」という時に、ここに書いてある助成金等を含めて様々な制度だとか、知っているとありがたいことというのがたくさんあると思うので、そういったものが一般の方が「あそこに行けば話が聞けそうだな」というのがイメージできることが大事だと思うんですよね。これは、それぞれアンケートを聞いてみないとわからないことなんですけど、「市民の声を聴く課」に行ってもビジネス支援が受けられるイメージってなかなか持てないと思うんですよ。なので、その辺は告知ということになるのか、どういうことになるのかわからないんですけど、もう少し知恵を絞っていかないといけないのかなという気がしました。これは感想です。

それと、その下の恒常的な地域活性化策の推進ということで、具体的な取り組みでボランティアポイント制度ということで、これ自体は地域の中で、経済とあわせて地域社会の人のつながりみたいなものもあわせて、循環型の社会をつくっていくということで、すごくいい取り組みだと思うんですよね。ただ、地域の中で経済循環ということになると、直接これをすぐ検討してくださいということではないですけども、例えば、地域通貨的な取り組みをはじめですね、ボランティアっていうのはちょっと離れて、いろんな具体的な取り組みというのが考えられると思うので、今のこれをどうこうというのではなくて、もう少しこれを広げ高めていくようなことも、検討の課題にはなってくるのかな、と感じました。

【北山会長】

只今、松尾委員から、コミュニティビジネスの助成金等についての情報の入手先はどんなところがあるのか、それからボランティアポイントの継続的な実施について、それから次のページの新たなネットワークビジネスの構築・人材活用ということですが、これらについて事務局の方からご回答をお願いいたします。

【小島主幹】

起業に対する相談窓口ということで、これは市民活動情報センター「ぼぼらーと」というところの事業なんですけども、こちらのNPO法人の方に市が委託しておりまして、こちらの方で相談窓口ですとか、相談体制というのを整備しているということになっております。確かに、おっしゃる通り、市民の方が市役所にいきなり来て相談という事は、ハードルが高いかな、というように考えておりますが、こちらの「ぼぼらーと」の方での相談体制を確立していく、ということでございます。

それから、恒常的な地域活性化策の推進、ボランティアポイント制度ということで、地域通貨というお話もございましたが、一昨年より商工会議所のほうで、「共通商品券」という制度を検討されているというのを伺っておりますし、今、国の施策で地域商品券の制度が若干緩和されて、地域商品券が発行しやすくなった、というようなことも聞いておりますので、そのあたりにつきましても、今後、商工会議所とともに検討を進めていきたいと考えております。

【北山会長】

では、その他ご意見・ご質問ありましたら、お願いいたします。

【鈴木委員】

今の松尾委員と重複する部分があるかもしれないですけども、まず5番目の石狩ハイスタンプ、

私、実はここ花川に札幌から越してきて5年目なんですけれども、ハイスンプをやっておりません。というのも、シールでいただけるようなんですが、それを台紙に貼ってというようなことで。もちろん石狩で買い物はたくさんするようにはしているんですけども、これは、だいたい市民の方は、みなさん長くいらっしゃる方は利用されているスタンプなのか、こういう方式のスタンプが慣れてなくて、利用できてないという事実もありまして、そういうような把握は、使っていらっしゃる方のパーセンテージとか、何かそういったことが見える化になっているのかな、というのが気になったところでありまして。外から来た者しか、こういう疑問がわからないかもしれないですけども、もしわかれば教えていただきたいという事です。

あと、次の6番目なんですけれども、回数が多くなっているかと思うのですが、これは出展された方・企業とかお店が、このあと販売に例えばデパートとか何かでやられてるようなので、そういうところで日常的に置かれるとか、そういうような効果というか、これに出展することで、「こういうふうに繋がったんだ」というような何かデータがあるのかな、というのが気になりました。毎年出ていらっしゃるような方もいらっしゃるかと思うのですが、何かそういったサクセスストーリーというか、そういうのが見れば市民にも活力になるな、ということと、これから出展される方も何かこう、「自分もやってみよう」という気になるのかなと、そういう風に思いながら、見させていただきました。

もう1つ、最後に自分がかかわらせていただいているイコロの会の中で、売れるモノづくりの人材育成というのがあるんですけども、このあたり何か26年度に向けて、お考えがあれば、準備があれば教えていただきたいなというのと、今、インターネットやホームページの時代でもあるようですので、ホームページの開設のような計画はあるのかなと、感じましたので質問させていただきましたと思います。

【北山会長】

鈴木委員の方から3点ですね。ハイスンプの利用状況と、商談会・物産展の効果というか、どれくらいの成約があったとか、どのくらいの売上があったとか、そのあとのつながりというか、いろんな小売店とのつながりができたとか、それから、ものづくりのホームページでのPR予定とかについてですね。それでは事務局、お願いします。

【小島主幹】

それではまず、ハイスンプの実績なんですけれども、実績を押さえていなくて、申し訳ございません。ですがハイスンプの事務局とお話しする機会があったのですけれども、言われるようになかなか新しく市民になられた方に対する浸透ができていないというのが現実だというお話を聞いていることから、そういう方々に対する周知ですとか、情報提供ですとか、いろいろ各イベントをやっています。約40店舗くらい加盟店があるのですが、それぞれのお店において期間限定の、例えば、スタンプを2倍ですとか3倍ですとかという各個店による取り組み等々もあると聞いています。いづれにしても、いかに日常の普段のお買い物をハイスンプ加盟店を利用していただけるか、そういうようなPRが重要であるという事は、ハイスンプの事務局と私どもも認識を同じくしているところでございます。

それと2点目の百貨店等への販路拡大、出展した効果ですとか、売上等についても、私どもの方で押さえていないんですが、観光協会の有田委員でその辺の情報ございましたらお願いします。

【有田委員】

実際に私の方も売上とかってというのは把握してないんですが、出展とか商談会に出るようになったのが、3年・4年ぐらいだと思いますよね。そごう千葉店・横浜店・小田急うんぬんというのがありますけども、特に熊本県民百貨店というのは、この商談会で知り合って取引というか去年、今年も行くんですけども、実際に観光協会が出展する形で確実にそれは伸びてきてます。

この商談会は観光協会が出展しているというのは少ないですね。物産協会というのも各都市にあるところが多くて、物協が各都市にありましてね、うちの観光協会で行くと物産販売でメインで行くのか、観光PRで行くのかっていう狭間にあってなかなか難しい面もあるんですけども、どちらにしても行くからには成果をあげてこなきゃならないし、市の特産品のPRもしてこなきゃならないし、というのでちょっと中途半端かなっていうきらいもありますけども、それなりに成果は上がっているんじゃないかなと感じてます。

【加藤部長】

3点目の「売れるモノづくり」の関係については、私の方から対応させていただきます。6次産業化に対する支援策として、様々な形で販路の拡大であるとか、試作品の開発等に対して、市の方が実行委員会に対して補助金を出しているんですけども、25年度はですね、例えば6つの商品が開発されています。1つ大きなものとするれば、山加製粉さんの第1号「鮭そば」だったんですが、第2号「鶏そば」っていうのはご存知ですか？あれを代表するように、藤女子大学の「乾燥した野菜」であるとかですね、取り組みはしてるんですけども、問題はこれをどういう形で販路を拡大していくか、商品の開発っていうのは24年度もうできあがっているんですけども、例えば千歳空港に置いたことはあるんですけども、物によっては。しかしながら、千歳空港での他のブランドに競争力に勝てずに、撤退した商品もあります。そういう意味では、この本当に「売れるモノづくり」どういう形で販路を拡大するか、ということで、平成25年度はですね、シンポジウムに1人カリスマの方を呼んで、北コミで行ったんですよ。やはり、そこは生産者の方も多く来ていただいて、そういう取り組みもして何とか内輪だけではなくて、石狩市内また市外に向けても発信するような形では努力はしています。それから商品については、うちの農政課のホームページから行けば商品は見れるようにはなっております。以上です。

【北山会長】

よろしいですか。関連して私の方から1点、鈴木委員の方からあったように、ハイスタンプの関係で先程事務局から説明あったんですけども、国が今、創生事業の中で地域の活性化のための地域スタンプっていうんですか、地域共通商品券の発行に対する支援をするという事で、会議所さんでも昨年…2年間くらい準備をかけて、商店街で発行するかしないか検討されてきたと思うんですよ。やっぱり発行するにはそれなりの人材なり、発行するためのプレミアをつけないとなかなか浸透していかないという問題があって、なかなか負担する部分で御苦労されて一步進まない状況なんですけども、今回、国のそういった支援がありますので、是非そのようなものもうまく利用されてスタートできればね。特に石狩っていうのは、他の地域と違って恵まれてる地域なんでね。逆に札幌市が近いから、いろんな買い物する消費者の方が重視すると他で札幌で買っちゃうので、できるだけ地元にお金を落としてもらおうとかね、それから私もいろんなお話を企業さんから聞いて、地元のものは地元で調達するというね「愛町購買」というんですかね、ああいったものを、もうちょっ

と活発にできれば、もっと石狩住みやすい街になるのではないかと考えていますので、是非ご検討いただければと。私の方からは以上です。

あとその他ございませんか。なければ時間の関係もございまして、1つ目の議題については終わらせていただきます。

それでは2つ目の議題について「地域ブランド推進の検討について」ということで、事務局の方からご説明をお願いします。

【小島主幹】

昨年この審議会におきまして、石狩ブランドに関連する支援制度についての検討を、先程から言っております産業活性化連携会議において、検討を行うこととしておりました。その会議において出た話題として、継続性のあるブランド石狩産材PRのため、まず、各団体において行っている既存事業の取り組みを整理することとしまして、その主な取り組み状況をお手元に配布の資料2でまとめております。この取り組みにつきましては、産業活性化連携会議を、順番が逆になって申し訳ないんですが、今月中旬以降の日程で現在調整中でございます。その場において、今後の方向性、市全体をオール石狩市としての、ブランド振興の方策についての協議を行うこととしております。今、配布の資料2につきましては、それぞれの団体の平成23年度から25年度までの取り組みの主なものを載せております。その検討会議におきましては、これらの事業の課題と今後の方向性の協議を行ってですね、ブランド推進のための取り組みの検討をして参りたいというように考えております。

(資料2説明)

【北山会長】

只今、事務局の方から各団体で行っております石狩ブランドの開発・推進についての説明がありました。何かご質問等、ご意見がありましたらお願いいたします。

【松尾副会長】

これ、この中で私がメンバーとして関わらせていただいたものもあるんですが、それぞれの団体でいろいろと取り組みをされていて、1つひとつの事業としては中身も含めて素晴らしいものがあると思うんですね。ただ、それぞれでやられてるものですから、外部の目線で見るときにやっぱりちょっと林立してるな、というような感じが否めないかなというのが個人的な感想です。これを全部一本化するということは、もちろん難しいと思うので、そういったことではなくて連携をとって、お互いが相乗効果を生み出すことを少し考えられないかな、というような感覚は持っています。

前にもこの会議でお話したことがあるかもしれませんが、富良野に行ったときに、みなさんご承知のように「ふらの」ってひらがなのロゴがありますよね。あれ、関係ない一般の商店とか、一般の会社でも富良野っていう部分で、あのロゴを使ったりするんですよ。あれは、やっぱり街に入ったときにすごく統一感というか、富良野っていう街に入ったなっていう感覚がすごく沸くんですね。じゃあ、「いしかり」っていうロゴを作ればいいのかどうかかわからないですけど、そのような、何かこう統一で取り組めるキャンペーンみたいなものがあればいいのかな、という気がします。みなさんご承知のように「石狩」っていう地名はブランド力あると思うので、是非活用する方法を考えていただきたいですし、私も考えたいなというように思っています。以上です。

【北山会長】

これは、このあとすぐということではなくても、これから、この事業を進めていく中でそういったインパクトのある、石狩のインパクトのあるブランドづくりのための、1つの道具としてそういったものを作ってほしいということですね。

これ、各団体でそれぞれいろんなブランドづくりをやっているんですけども、この審議会の下に、産業活性化連携会議っていうのがあるわけですね。そこで、それぞれの具体的な事業の進捗状況だとか、これからの課題だとかを検討されるということですね。ではその内容がある程度具体的になった段階で、この審議会でもたご報告いただいて、検討するというような流れになりますよね。そういったことをふまえて、何かご意見はございませんか。

なければこの議題については終わりますので、よろしいですか。

それでは、事務局の方からお願いとして今後のスケジュールについて事務局からご説明をお願いしたいと思います。

【小島主幹】

検討の開始が遅れて申し訳ありませんが、期間に縛られず、内容を重視して検討して参りたいと考えておりますが、石狩ブランド振興については、冒頭の部長挨拶にもあったとおり、26年度の市の重点施策の1つとしていることから、本年度内にはある一定の方向を見いだせるように検討を進めて参りたいと考えておりますことから、本審議会につきましては、年度内にもう一度開催する予定としておりますので、委員の皆様には宜しくお願ひしたいと思います。

【北山会長】

それでは以上を持ちまして審議については終了とします。ちょうど16時30分になりました。これで終了します。貴重なご意見ありがとうございました

平成26年11月6日 議事録確定

石狩市地場企業等活性化審議会

会 長 北 山 雀